

## Y01a 日本の古代中世の地震史料における月の位置の記述

服部健太郎（関西大学）

日本の古代中世の地震史料に、月の位置およびそれに基づいた地震動の分類の記述が記されることがある。地震史料集の他、神田茂『日本天文史料』（恒星社、1935）に、「月雑象」として、例えば次のように収録されている。

〔後法興院家記〕二十三

六月十二日丁丑、昨日地震勘文尋問記之、  
只今申時大地震、月在亙宿（『日本天文史料』724頁）

ところで月の位置の記述については、旧暦の月日に基づき割り当てられたものか、あるいは実際に観測した位置が用いられているかどうか、必ずしも明らかではない。本発表では、『日本天文史料』及び古代・中世地震・噴火史料データベース（β版）（古代中世地震史料研究会）に掲載された地震史料を中心に、月の位置の記述を伴うものに注目し、天文ソフトを用いて、その日の月の実際の位置との比較を行う。